

NPO やすらぎの郷 いいの

安心して住み続けられるまちをつくりたい！



NPO 10周年記念号です

僕は10歳。いつもサッカーでグラウンドをかけまわっているよ。あなたは何年立ち続けているの？

— もうわからないほどじゃ。でもこうして毎年、きれいな黄金色の葉を落としているよ…



みんなの広場



あれから 10 年・・・

飯野町社協が福島市社協に合併されて3年はヘルパーの仕事も変わりなく、職場も旧やすらぎ荘だったので自宅からも近く良い環境でした。

しかし、事業所が福島にとの話があり、ヘルパー事業所が飯野町に一つもなくなると思うと、小さくても事業所があったらと、心の底から思うようになりまして。その頃飯野町社協時代の事務局長が間もなく定年を迎えるとの話もありイメージが膨らんだ記憶があります。

新たな事業所が出来ればとの想いがふくらみ、旧やすらぎ荘の面々で集まるきっかけとなりました。朝倉さんはじめ多くの方の協力があり、NPO やすらぎの郷いいのが立ちあがりまして。

あれから10年、私達はこの事業所で働くことが出来ています。しあわせです。〈ヘルパー 斎藤 典子〉

良いことも辛いことも

設立時はゆっくり利用者様と関わりたいと思いながらも、毎日忙しく日々は過ぎていきました。「安心して住み続けられるまちをつくりたい!」そんな思いで毎日過ごしてきました。

皆様のおかげで色々ありながらも楽しく仕事させていただいていますが、良い事ばかりでなく辛い事もたくさんありました。前事務局長の朝倉さん、副理事長の信一さん、広報委員の新村

さんが亡くなったことです。飯野町の事が大好きで、やすらぎの郷いいの為に全力を尽くし、私達職員が働きやすい環境を作って下さった仲間の死は、とても辛く、存続が難しいのではないかと思った事が何度もありました。〈ヘルパー 菅野 三三子〉

ケアマネとして

人と関わった仕事がしたいと思ったのは30代後半です。家の近くの飯野町社協で働けるようになり、前事務局長朝倉さんとの出会いもあり、事務とヘルパーの仕事をしながら福祉を学びました。福島市との合併を機に介護福祉士やケアマネジャーの資格を取得し、飯野事業所が市社協に1本化になる決定は、私の岐路でもあったと思います。

ケアマネ経験の無い私は、やまなみ介護支援事業所で学ばせて頂き、翌年居宅介護支援センターでスタートを切ることになりました。経験も浅く、職種を超え本当にたくさんの方たちに助けて頂きながらの毎日でした。今でもつまづくことがあります。同じ仲間も出来て相談しながら仕事出来るのでうれしいです。

地域を思うたくさんの方が大きな渦となり、立ちあがっていったこの法人で、心地よく働けていられることに感謝しています。

〈ケアマネ 宇佐見 芳子〉

今年 10 月で設立してから 10 年 その歩み 〈その 1〉

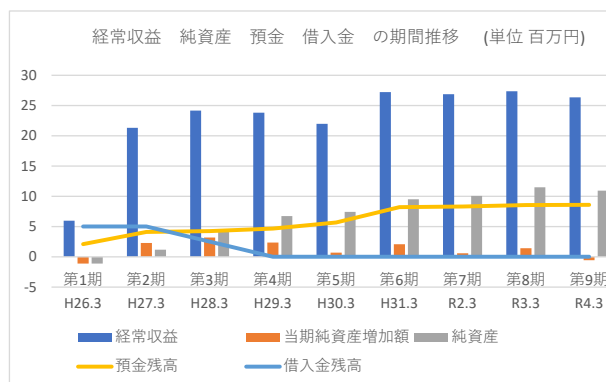
理事長 伊藤 敏寛

平成 25 年 5 月 21 日、特定非営利活動法人やすらぎの郷いいの設立総会が飯野学習センターで開かれました。設立趣意や定款が承認されました。設立時会員 22 名です。設立趣意は「私たちは、家事支援や介護支援及び地域の支援体制づくりをすすめる、高齢になっても、お互いに人間としての尊厳を保ち、住み慣れた地域で安心して暮らしていけるまちをつくりたいとの思いで集まりました」から始まります。そのために事業を行うと定款で決めました。立ち上げ資金は、設立会員からの長期借入金、5 百万円です。

まもなく、県から NPO の認証を受け、同年 10 月から訪問介護事業（ヘルパー）を開始しました。合わせて生活支援事業（有償ボランティア）も開始しました。また、翌平成 26 年 6 月から居宅介護支援事業（ケアマネジャー）を開始しました。

設立翌年の 11 月に記念感謝祭を行いました。ヘルパーは 8 名まで増えて、活動や事業は順調に伸びました。また、清掃・片付け、草刈、墓地清掃、病院付き添いなど介護保険以外の支援活動（有償ボランティア）の依頼も増えたので、ボランティアさんの募集のとりくみに努めました。

設立 2 年目の平成 26 年度は 230 万



円の黒字化を実現できました。3 年目は 320 万円の黒字となり、平成 28 年には 5 百万円は完済することができ、経営的な基盤がしっかりしてきました。

平成 29 年 5 月、設立発起人代表で事務局長を担われてきた朝倉さんが逝去されました。悲しみの中、6 月の総会で新たに齋藤さんに事務局長をお願いし迎えることとなりました。紆余曲折がありながらも、設立時の思いを受け継ぎながら、続けることができました。

設立の年は、飯野町が福島市と合併してから 5 年目で、社協のヘルパー飯野町事業所が撤退することになった年でした。多くの皆様から声をかけていただき、関係諸団体にも支えられ、職員の奮闘もあり、10 年目を迎えることができました。

この場を借りて感謝申し上げます。

<安心して住み続けられるまち リレートーク その16

飯野混声合唱団 40余年の足跡

飯野混声合唱団
は、令和4年3月27日「感謝のつどい」をもって活動を終えました。

昭和53年3月に当時の阿曾佐重教育長の声がかかりで福島



最後のステージ

参県芸術祭合唱部門に参加するため飯野小PTAメンバーが中心となり飯野コーラスクラブとして設立され、第2回県北おかあさん合唱祭で「美しい夜」「エーデルワイス」「狩猟の歌」の3曲を発表したのが初のステージでした。

毎年、飯野町の時の成人式、福島市に合併後は新春賀詞交歓会、そして芸能祭で歌ってきました。

県北おかあさん合唱祭にも毎年参加し、最後のステージが令和3年9月の福島市音楽堂でした。

コロナ禍の中、飯野地区芸能祭が中止になり地元での発表ができないまま活動を終えるのは残念でした。高齢化には勝てず令和3年の総会で、今年1年で活動を終了しようと決定したのです。

振り返ると平成10年飯野小学校で開催した県北おかあさん合唱祭の頃から会員も増えてきて平成14年シルバーコン

サートをはじめ、「第九」「筑後川」「レクイエム」など他の合唱団と一緒に歌い活動の幅を広げたことも成長につながりました。

平成17年には、飯野町合併50周年記念式典で飯野町メッセージソング「飯野町賛歌」を披露しました。

「10周年ファミリーコンサート」や「25周年記念演奏会」が「35周年記念演奏会」を成功に導いてくれました。福島テルサの超満員の観衆の中で「大地讃頌」「長崎の鐘」など披露し、最高の感動の時を過ごすことができました。このとき賛助出演いただいたメゾソプラノ歌手の坂本朱美さんからお誘いをいただき平成28年に22名でイタリア演奏旅行に出かけました。ミラノ近郊の「聖ピアージョ教会」「聖アナスタージア教会」で坂本ご夫妻とともに「ふるさと」「さくら」「長崎の鐘」等を披露してきました。

これまで合唱団を支えていただいた多くの皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。

〈 合唱団指揮者 関 健一 〉



NPO やすらぎの郷いの

福島市飯野町字前川16

TEL 024-563-4804

ホームページ <http://yasuraginosatoiino.jp/>